

ワークライフバランスフェスタ東京2013



WORK LIFE BALANCE FESTA TOKYO

働き方を見直すいきいき職場を応援！ 平成25年2月7日(木) 東京国際フォーラム 展示ホール(2)

去る2月7日(木)、東京国際フォーラム展示ホール(2)にて、本年で5回目となる東京都主催による「ワークライフバランスフェスタ東京2013」が開催されました。このイベントは、WLBに取り組む企業の紹介や各種セミナー等を通じて取組効果・手法を発信し、都内中小企業の雇用環境整備を進めることを目的としたものです。当日は、平成24年度東京ワークライフバランス認定企業への認定授状授与式や、キャスター膳場貴子氏の進行のもと、パネリストとしてWLBの有識者等を迎えたパネルディスカッションや、(株)東レ経営研究所 特別顧問 佐々木常夫氏による基調講演が行われました。更に、「フェスタ5周年記念企画」として、来場者参加型イベント等が行われ、一部イベントでは定員を大幅に超える来場者がありました。



認定企業やWLB導入支援等を行う企業・団体ブースでは、来場者と活発な交流をしている様子も見受けられるなど、WLBへの関心が高まっていることを感じさせました。

※WLB:ワークライフバランスの略

ワークライフバランス(仕事と生活の調和)とは?

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」(ワークライフバランス憲章より)

「東京ワークライフバランス認定企業」とは?

東京都では、従業員が仕事と生活を両立しながら、いきいきと働き続けられる職場を実現するために、優れた取組を実施している中小企業等を「東京ワークライフバランス認定企業」として年間10社程度選定しています。

東京ワークライフバランス認定企業認定授状授与式

東京ワークライフバランス認定企業(4部門合計10社)

■長時間労働削減取組部門

- (学)川口学園
夜間機械警備の導入による終業時間の徹底等
- テラインターナショナル(株)
定時退社推進運動の実施、優秀者の表彰等

■休暇取得促進部門

- アルス(株)
法定超の休暇や様々な休暇制度の導入等

■育児・介護休業制度充実部門

- サイボウズ(株)
生活の変化に応じて選択できる人事制度等
- (株)テイルウィンドシステム
社員間でサポートできる育児応援制度等
- (医)柏提会奥沢病院
24時間利用可能な院内保育室の設置等
- (株)マルヨシ
出産時、入学時祝金制度の導入等

■多様な勤務形態導入部門

- 大友不動産(有)
在宅勤務制度及び正社員登用制度の導入等
- クラスメソッド(株)
帰省が必要な社員への在宅勤務制度の導入等
- (株)テレワークマネジメント
個人の生活に合わせたテレワークの実施等



基調講演



家庭と仕事の両立実践。著書「ビッグツリー」がビジネス書最優秀著者賞を受賞。

(株)東レ経営研究所 特別顧問 佐々木常夫氏「個人も会社も成長するワークライフバランス」

WLBとは、個人も会社も共に成長する経営戦略です。会社の仕事を定時に終えて、自分の生活を充実しようというのではなく、定時に帰っても、それと同じかそれ以上の仕事の結果を出さなければならないものです。

WLBは、仕事の改革があって初めて実現できるものです。特に、タイムマネジメントを実践するために、デッドラインを意識した計画を作成するとともに、業務の達成度を検証し、業務効率を高めていくことが必要です。

また、トップを含めた組織全体の意識改革や、働きやすい仕組み作り等にも合わせて取り組むことが求められます。

WLBの推進は、少子高齢化社会に伴い、育児・介護など時間に制約がある人が増加する現代においてますます重要です。個人にとっては、私生活上での様々な情報収集を通じて、自己の成長や意欲の向上に繋がり、企業にとっても、優秀な人材の確保、生産性の向上のほか、長時間労働に起因するメンタルヘルス対策として有益です。

パネルディスカッション

「WLBのはじめの一歩 ~時代に求められるWLBとは~」

膳場氏：新しい働き方が必要になってきた背景や、現在求められている働き方とはどのようなものなのでしょうか。

小室氏：少子高齢化に伴う労働力人口の減少を背景に、コストをかけずに人材を最大限に活用できる働き方を実現する方法として、WLBが求められています。

森永氏：世界と比較し長時間労働が顕著な日本において、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現に取り組むこと、労働生産性を向上させることが求められています。

膳場氏：WLBを推進するための提言をお聞かせください。

倉本氏：長時間労働が当たり前の建設業界の働き方を変えるため、当社では、8年前よりWLBに取り組み、社員のやる気や仕事に対する満足度も高まりました。生産性の向上や優秀な人材確保にも繋がるため、中小企業の経営者こそWLBに取り組むべきです。

高祖氏：長時間労働のワーキングマザーがいる一方、仕事を辞めざるを得ない母親もいる現在において、柔軟な働き方の整備が重要だと思います。仕事と育児両方をこなすのが母親だけにならないよう、父親も育児に参画すること。父親がコミュニケーションをとる時間を作ることも必要です。

森永氏：日本とほぼ同じ年収のイタリアでは、残業や休日出勤が全くなく、1か月の夏休みを取っています。日本人も定時に帰るために、業務を効率化し、高付加価値のものを生み出す余力を作ることが大切です。

小室氏：WLBは時代と共に変化し、誰もが直面しうる介護と仕事の両立が今後ますます必要となる現在において、生産性の向上には全社員で臨むことが求められます。時間当たりの生産性向上に対する社員の意識を高めることや、仕事の属人化を排除することが重要です。人生を評価するのは会社ではなく、家族です。人生の満足度が上がるよう、家族と向き合う時間を増やすべきだと思います。

コーディネーター

膳場 貴子氏
(キャスター・元NHKアナウンサー)

パネリスト

森永 卓郎氏
(獨協大学教授・経済アナリスト)
専門は労働経済学と計量経済学。「日本人のラテン化」が年々の主張。

小室 淑恵氏
(株)ワーク・ライフバランス代表取締役社長
自社で企業向けのコンサルティングを行う。内閣府の委員などを兼任。

高祖 常子氏
(育児情報誌「miku」編集長)
NPO活動や情報誌の執筆等を通じ、子育てアドバイザーとして活動。

倉本 真澄氏
(港シビル(株)代表取締役)
平成23年度東京ワークライフバランス認定企業(長時間労働削減取組部門)。

フェスタ5周年記念企画

5周年記念企画として、WLBの初歩的知識から実践的なものまで、来場者それぞれに合った学習ができるようなイベントが行われました。来場者参加型プログラムでは、自らのキャリアデザインを考えるワークショップや、「ワールドカフェ」が行われ、来場者同士がさかんに意見交換を行う様子が見受けられました。また、来場者全員に「ワークライフバランス検定」が配布されたほか、過去の認定企業の認定時と現況を比較したパネル展示やセミナーが行われました。



▲「ワールドカフェ」にて意見交換の様子

東京都 主催：東京都 共催：子育て応援とうきょう会議
後援：東京労働局、東京商工会議所、東京経営者協会、東京都中小企業団体中央会、東京都商工会連合会、(社)東京工業団体連合会、東京中小企業家同友会、日本労働組合総連合会東京都連合会、東京地方労働組合評議会、(公財)日本生産性本部、独立行政法人労働政策研究・研修機構、(財)21世紀職業財団、(公財)東京都中小企業振興公社、(公財)東京しごと財団

問い合わせ先 ワークライフバランスフェスタ東京2013事務局
〒112-0004 東京都文京区後楽2-13-10 (株)ムラヤマ内 TEL:03-3813-1735 FAX:03-3813-1785
東京都産業労働局 雇用就業部 労働環境課 雇用平等推進係
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 都庁第一本庁舎31F TEL:03-5320-4649 FAX:03-5388-1469
E-mail:S0000444@section.metro.tokyo.jp

公式ホームページ

www.wlb-festa.metro.tokyo.jp

